きっず　あーと　らしんばん！

KID' S ART 羅針盤！

ナビゲーター育成セミナーテキスト

社団法人　山形青年会議所　文化推進委員会

後　　援　　財団法人　山形美術館

山形市教育委員会

目　次

1・はじめに …… 1

2・『KID'S ART 羅針盤！』事業目的と展望 …… 2

3・『KID'S ART 羅針盤！』(対話型絵画鑑賞プログラム)って？ …… 3

4・ナビゲーターって？ …… 4

5・『KID'S ART 羅針盤！』の取り組みについて …… 5

6・『KID'S ART 羅針盤！』の実践 …… 11

7・山形美術館資料

・山形美術館の沿革 …… 17

・山形美術館のご案内(建物内見取り図) …… 19

・主な展覧会と入場者数 …… 20

・みんなの宝箱！『山形美術館』(収蔵品の紹介) …… 22

・インフォメーション(アクセス) …… 26

は　じ　め　に

この度は、『KID'S ART 羅針盤！』ナビゲーター育成セミナーへご参加をいただき、ありがとうございます。

わたくしたちは、山形市にある地域の芸術文化がたくさん詰め込まれている、わたしたちの『まちの宝箱』山形美術館を舞台として、子ども達がより多く芸術作品に触れ、豊かな感性を育める事業をおこなってゆくとともに山形における芸術文化の普及活動を行ってまいります。

主旨のご理解をいただき、ご協力を宜しくお願い致します。

『KID’S ART 羅針盤！』事業目的と展望

いまだ敷居が高く感じられてしまう美術館を舞台に、本物の作品が与える感動を実際に受け止め、育み、その創造性から新たな文化の発想、形成していくことで魅力あるまちづくり、ひいては豊かな人づくりへの根幹としたい。

【豊かな感受性、心の育成】

実際に絵画や作品に接することで得られる感動を体験することで感受性を養う。又、芸術と触れ合って感じた思いを相手にしっかり伝える事の出来る心、相手の思いを理解する心の育成を目的とする事業としたい。

【まちの宝箱・郷土の誇り】

わが町の美術館である山形美術館には、世界的にも有名な作品が収蔵されていることを、もっと多くの市民に知ってもらい、私たちの身近にある『市民の共有財産』(まちの宝箱)であることと共に郷土の誇り、郷土愛に気づきを促す。また観光立市YAMAGATA の発展に寄与する。

【世代に繋がる文化づくり】

親子を対象にすることにより世代を超えてまちの文化に親しみ、新たなる発展に繋げて行きたい。

『KID'S ART 羅針盤！』(対話型絵画鑑賞プログラム)って？

美術館で、美術品に触れることにより、美術館を身近に感じる事が出来る。

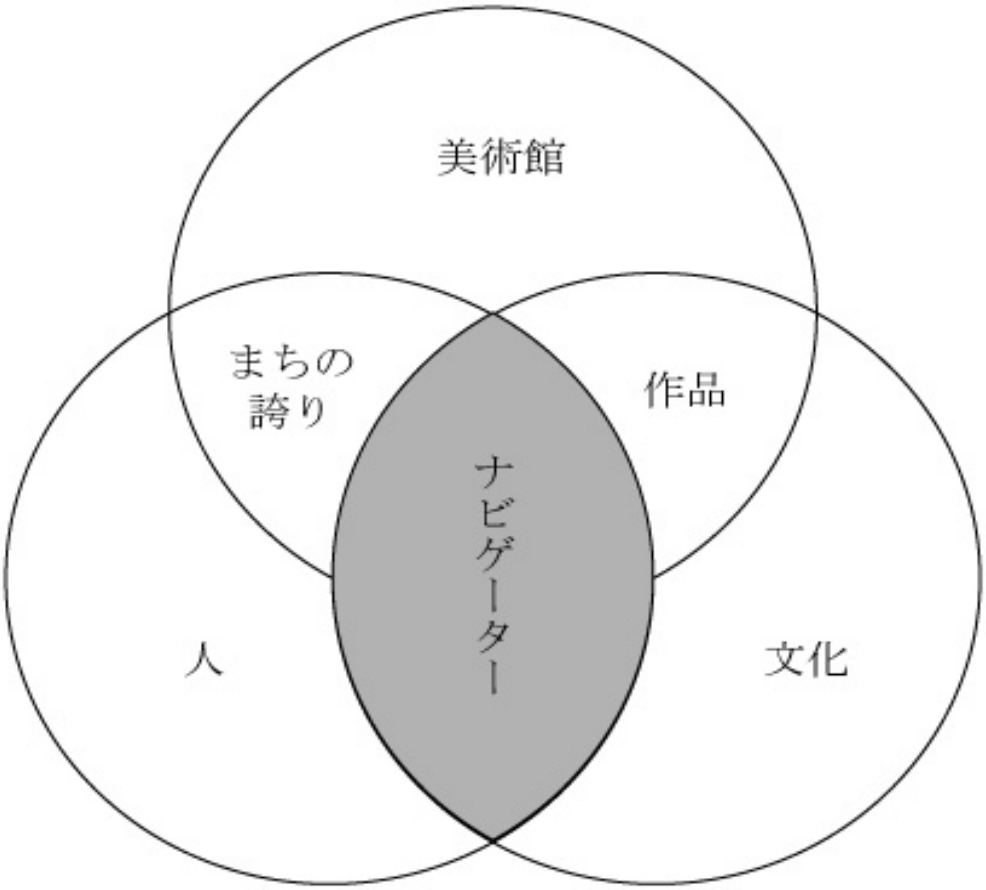
また、柔軟で豊かな感性を素直に相手に伝える事のできる心の育成の

一助となる。

- 美術品に親しんでもらい、美術作品を楽しんでもらう。
- まちの宝箱である美術館に親しんでもらい、美術館を楽しんでもらう。
- 自分の目で見て、自分で考え、自分で表現することにより豊かな感性と人間性を育む。
- 子ども達の言動を否定せず、子ども達の言動を大切にする。
- 子ども達の気持ちを大切にし、わかり合える話し方を心がける。
- 大人の固定観念を押し付けず、子ども達の自由な発想と感性を大切にする。
- 他の来館者への気配りを忘れない。

『ナビゲーター』って？

この対話型鑑賞プログラムをとおして美術作品から感じたものを「ことば」として、豊かな創造性や感受性といった「感性」を引き出すこと、柔軟で豊かな「感性」を子どもたちが素直に相手に伝えることの手助けといった「心の育成」を目的とした役割をおこないます。
また、子どもたちが美術館で美術品に触れることにより、美術館、美術作品を身近に感じ、親しむことにより次世代にむけた、芸術文化普及活動の担い手としての役割もふくまれています。



KID’S ART 羅針盤！
（対話型絵画鑑賞プログラム）

■目的

□子どもたちにとって…

・美術館に親しんでもらう、また美術館を楽しんでもらう。
・美術館を身近で、気軽な場所に感じてもらう。
・気づきを味わうことで、作品とじっくり向き合う体験をしてもらう。
・様々なかたちの鑑賞により、美術作品と仲良く、親しくなるような体験をしてもらう。
・豊かな感性、人間性を育む。
・自分の目で見て、自分で考え、自分で表現する機会となる。
（観察力、思考力、表現力、想像力、創造力を養う）
・自分が受け入れられることの喜びを知ってもらう。
・自分と違う考えや、表現を受け入れることができるようになってもらう。
・柔軟で豊かな感性、人間性を備えた人格を育成する一助となる。
・いろいろな表現方法があることを知ってもらう。

□ナビゲーター（候補）のみなさんにとって…

・参加者（子どもたち）と対話型絵画鑑賞プログラムに参加することにより、自身も新たな気づきを与えられるとともに、絵画に対する自らの観察力・表現力を養うことができる。
・美術館・美術作品の魅力を、より多くの人々に伝えることで、ナビゲーターとしての力を伸ばすことができる。
・ナビゲーターとして活動することで、更なる芸術文化の拡大に繋げる事ができる。

対話型絵画鑑賞プログラム
↓
対話型絵画鑑賞プログラムの体験
↓
絵画鑑賞に気づき
↓
美しいものを美しいと思うこころ
↓
こころ豊かな子どもの育成

ナビゲーター育成セミナー
↓
対話型絵画鑑賞プログラムの体験
↓
対話型絵画鑑賞プログラムの評価
↓
繰返す事でナビゲーターとしての力を伸ばしてゆける
↓
ナビゲーター・プログラム参加者
教育関係団体・ご家族・JC が繋がっていくことで継続的に芸術文化を広める活動になっていく

■対話型絵画鑑賞プログラム中の役割・注意点

□ナビゲーター

子どもたちとわかり合える話し方を心がける。

・わかりやすい言葉、わかりやすい表現で、優しく、易しく。
・子どもの発言をオウム返しで復唱することで、こちらの理解を表現する。
・簡潔に、はっきりと話す。
・伝わらないときは、繰り返し、ゆっくり丁寧に説明する。

子どもたちの言動を否定しない

・まず、受け入れる。
・注意するときは、言葉を選んで。
　例：～しない方がいいね。
・まったく関連なく思われる言動も大切にする。
・興味が持てない子どもにも、無関心にならない。

子どもたちの気持ちを大切にする

・一人ひとりの気持ちを感じ取るよう心がけ、平等に接する。

固定観念、既成概念を自ら口にしない。

・子どもたちが、自由な発想で、それぞれ思い思いに、作品と接することができるように。
・作品や知識の詰め込みにならないようにする。
・　「教える」のではなく、一緒に「楽しむ」ことを心がける。

□バックアップグループ

作品への気配り

・絵画鑑賞プログラム参加者（子どもたち）が、作品に触れたり、ぶつかったりすることのないように注意する。

子どもたちへのまなざし

・あたたかいまなざしと、笑顔で対応する。
・話すときは、子どもと同じ目の高さで。
・子どもたちの良いところを見つけ（言動、制作など）ほめる。
・ナビゲーターが話している最中でも、集中力が散漫がちだったり、話に混ざれなさそうな参加者がいたら、そっと語りかけてナビゲーターへの注目を促す。
・自分の好きな絵の前に立ち止まった時には（自分なりの言葉でよい）絵に書いてあるものを様々な言葉でヒントを出し好奇心や気づきを引き出す。

作品へのまなざし

・子どもの目の高さで作品を見てみる。
・子どもたちが気づかない部分や角度を示し視点をばらまくようにする。

他の来館者への気配り

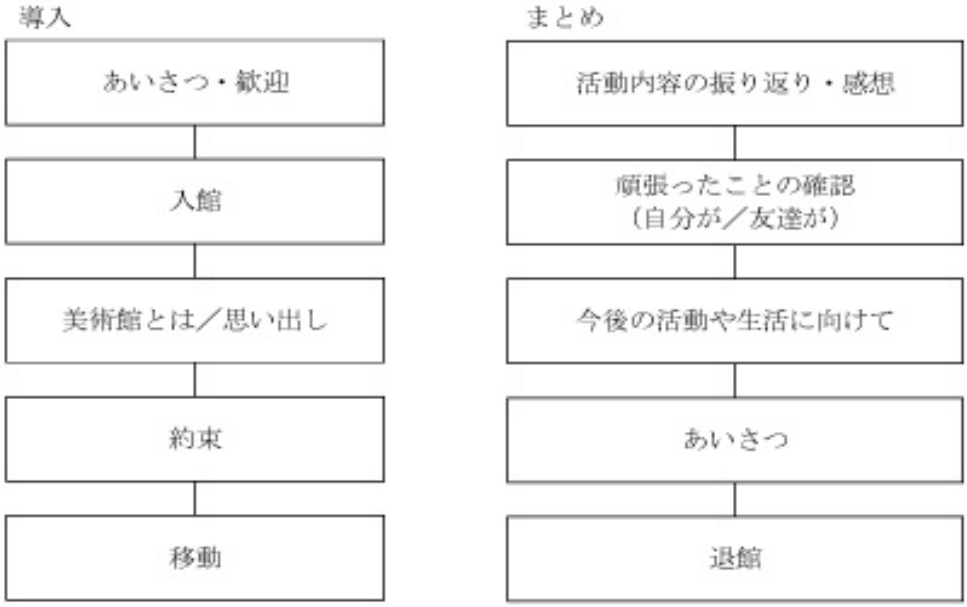
・他の来館者に大きく迷惑がかからないように事業内容を説明し理解をお願いする。
・他の来館者から子どもたちに悪い影響がないように気を配る。

■導入とまとめ

□基本の考え方

・【導入】では、子どもたちへの歓迎の気持ちを伝え、その日のプログラムへの期待を高める言葉かけをする。また、展示室へ入る前に美術館にある作品は『みんなの宝物』美術館はみんなの宝物を入れておく『大きな宝箱』という話しから美術館という所がどのような場所であるかを伝え、作品保護のための約束や公共の場でのマナーをともに考える。

・【まとめ】では、その日の活動を振り返り、感想等を求めながら子どもたちの活動をほめるなどし、園や家庭での活動や話題、また次の来館につながるよう言葉かけをする。



■美術館でしてはいけないこと

□美術館でしてはいけないことは２つだけ

・「作品をこわさないこと」

・「他の人の鑑賞をさまたげないこと

作品は、わたしたちの共有の財産です。
現在を生きている私たちだけのものではなく、未来の人たちのものでもあります。
そのため、私たちは、それらの作品をできるだけ良い状態に保存し、次の世代に
受け渡していかなければなりません。
また、共有の財産である作品を、みんなが同じ条件のもと、鑑賞できる環境を
保たなければなりません。
みなさんも協力してください。

「作品をこわさない」「他の人の鑑賞をさまたげない」ために、
気をつけていただきたいことを細かく見てみましょう。

「作品にさわらない。」

●作品が、やぶれたり、傷ついたりします。

●傷つけないようにそっとさわったつもりでも、手の脂や汚れのために、長い年月の中で、作品が劣化していきます。

「指さしのときは、注意して。」

●さわらないように指をさしたつもりでも、思わぬはずみで作品に当ってしまう恐れがあります。距離をとってください。

「リュックサックや手持ちの荷物に注意」

●思いがけず作品にぶつけたり、他の人にぶつけたりすることのないよう、注意してください。

「傘に注意」

●一般的に美術館では、展示室内へ傘を持ち込むことは、禁止されています。とがった先端が危険であり、また、傘についた雨のしずくが、展示室の環境を悪くするからです。

「ぼうしに注意」

● 細部を見ようと、顔を近づけたところ、ぼうしのつばが作品に当たってしまう、という恐れがあります。気をつけてください。

「建物内で、携帯電話を使わない。」

●他の人の鑑賞のさまたげになります。
●通話ばかりでなく、着信音も迷惑音です。電源を切るか、
　マナーモードにしてください。
●通話はもちろん、メールの送受信も、必ず建物の外でお願いします。

「カメラ、ビデオ、携帯電話を使っての撮影は禁止」

●フラッシュの強い光は、作品の劣化につながります。
●フラッシュや撮影の音は、他の人の鑑賞のさまたげになります。
●作品（作者）には「著作権」があります。許可を得ず撮影をする
　ことは、著作権の侵害になります。

「筆記用具は、えんぴつ、またはシャープペンシルのみ。」

●インクなどが、作品についてしまうと、とることができません。

「床、壁、展示ケースに押し付けたり、もたれたりして書かない。」

●他の人の鑑賞のさまたげになります。
●下敷きになるものをご用意ください。
●作品に当たってしまう恐れがあります。

「館内へのペットの入館は禁止です。」

●美術作品保護の為にもご理解、ご協力下さい。

その他にも美術館内ではしてはいけないルールがあります！

「展示室内では飲食禁止。」

●展示室内に食べ物を持ち込まない。
●飲食物が、作品についたら取り返しがつきません。
●食べかすが虫をよび、作品の破壊につながります。
●飲食物のにおいは、他の人の鑑賞をさまたげます。

「建物内では走らない。」

●作品や他の人に、ぶつかる恐れがあります。
●美術館はみんなの場所です、他の鑑賞している人に迷惑がかかります。

「大声で話さない。」

●他の人の鑑賞のさまたげになります。
●つばが作品にかかると、そこから劣化がはじまります。
　周囲への配慮をもったおしゃべりは、かまいません。

「作品の前を占拠しない」

●メモを取ることに一生懸命な団体が、長時間作品前を占拠してしまうことが、しばしばあります。メモを取るのは結構ですが、他の来館者の鑑賞のさまたげにならないように、配慮をしてください。

「立入禁止区域に、入らない」

●危険な場所もあります。

資料作品①

EX

①

②

③

④

メモ

資料作品②

EX

①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

③＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

④＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

メモ

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

資料作品③

EX

①

②

③

④

メモ

資料作品の解説

作品NO	作者	題名	制作年	材質
①	ジャン=フランソワ・ミレー	『バター作りの女』	1870	・油彩 ・キャンヴァス
②	ピエール＝オーギュスト・ルノアール	『庭で犬を膝に抱いて読書する少女』	1874	・油彩 ・キャンヴァス
③	オーギュスト＝ロダン	『永遠なる休息の精』	1899	・ブロンズ

MEMO

附　　件

□ 沿革

1962年

11月　「財団法人山形美術博物館」を設立。

1963年

8月　理事会において設計計画が承認される。
建築総面積1,074平方メートル、鉄筋コンクリート平屋建て、一部地下1階。玄関ホール両翼に200平方メートルの常設展示室、展示可能な会議室、収蔵庫その他を設ける。

9月　起工式。

山形美術博物館外観

1964年

6月　上棟式。

8月20日　山形美術博物館開館。開館記念展「藤山コレクション―現代洋画名作展」、引き続き、第20回山形県総合美術展を開催。

展示室

1966年

11月　隣接する新潟、秋田両県の美術館に呼びかけ、各館所蔵品の相互貸借、事業協力を目的とする「両羽美術館連絡協議会」（現・東北美術館会議）を結成。

1967年

1月　第1回山形県写真展を開催。

1968年

5月　別館（地上2階、地下1階鉄筋コンクリート 述べ床面積約700平方メートル）が完成。別館2階が常設展示「新海竹太郎・竹蔵記念室」となる。

6月　山形銀行専務長谷川吉郎氏より、同家が歴代にわたって収集してきた松尾芭蕉《出羽三山短冊》、与謝蕪村《奥の細道図屏風》（重要文化財）、渡辺崋山《渓澗野雉図》を含む日本画、書跡、工芸など優品163点の寄贈を受ける。

10月　全国美術館会議を山形市にて開催。

1971年

山形県立博物館が閉館（4月1日）したのに伴い、当館が収蔵していた約2万点の博物資料を移管。以降、事業活動を美術部門に集中し、山形の郷土作家シリーズや個展の事業を積極的に展開する。

10月　第1回山形県総合書道展を開催。

1975年

11月　「国立西洋美術館所蔵　松方コレクション」展を開催。会期中の入場者が11万3千人に達する。

松方コレクション　入場者の列

1979年

6月　「山形美術館」に名称変更。

1983年

5月　施設の狭隘化にともない、開館20周年記念事業として、本館を解体し、跡地に新館を建設することが決まる。

新館規模は5,500平方メートル前後、鉄筋コンクリート3階建て。外観は山形の風土性を生かした田麦俣の多層民家をモデルとした大屋根型。作品展示だけでなく、人間相互交流の場として親しまれる館にするという3つの基本構想が採択される。

新館

1984年

5月　本館解体工事が始まる。

1985年

3月　上棟式・定礎式。

7月　修祓竣工式。

8月　新館開館。『山形美術館二十年誌』刊行。

新館建設を機に、フランス現代美術の系統的な収集方針が打ち出される。ピカソ、ルオー、シャガールらの作品に加え、パリ画壇で活躍中の現存作家50人の作品を収蔵展示する。

1986年

10月　別館を全面改修し新館と一体化。長谷川コレクションおよび新海竹太郎・竹蔵彫刻の常設展示室を設ける。

1991年

6月　吉野石膏株式会社より印象派の作品を中心とするフランス近代絵画21点の寄託を受け、常設公開する。その後、継続的な追加寄託を受ける。

当年度の入場者が、開館以来最高の17万8千人を超える。

1992年

10月　財団創設30周年と第47回国民体育大会を記念し「山形 美のシンフォニー」展を開催、併せて『山形美術館作品集』を刊行。

1994年

地下1階の収蔵庫改修工事を実施。

5月　㊲長谷川家より、日本近世・近代の絵画を中心とした美術品81点の寄贈を受ける。

1995年

12月　㊶長谷川家より、山形県指定有形文化財7件を含む絵画48点の寄贈を受ける。

2002年

12月　館内改修工事を実施（～翌年2月）。

2003年

10月　第18回国民文化祭・やまがた2003美術展（日本画・洋画・彫刻・工芸）が開催される。

2004年

4月　1階の収蔵庫改修工事を実施。

8月　山形美術館開館40周年を迎える。

□館内のごあんない

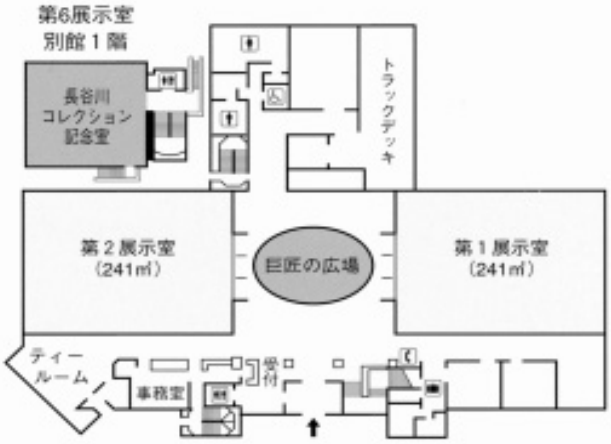
常設展示室

企画展示室

※別館への通路は
本館2階北側です。

3階

2階



1階

□主な展覧会と入場者数

年　度（西暦）	年度入場者数	累　計	主な展覧会
昭和 39(1964)	28,694	28,694	開館記念現代洋画名作展、院展山形展、アメリカ文化展
昭和 40(1965)	85,936	114,630	椿貞雄・鈴木蘭菲展、日展山形展、院展芸術の歩み展、菅原白龍展、菅公展
昭和 41(1966)	55,540	170,170	昭和の洋画と高橋由一展、新海竹太郎遺作展、明治大正昭和名作美術展、大原コレクション展
昭和 42(1967)	65,838	236,008	日本伝統工芸秀作展、現代写真の10人展、日展山形展、鉄の芸術日本刀展
昭和 43(1968)	43,532	279,540	グラフィックアート展、新海竹蔵遺作展、小松均展、高橋英右エ門コレクション展
昭和 44(1969)	51,296	330,836	院展山形展、戦国武将墨跡展、日本開国美術展、茶陶展
昭和 45(1970)	81,634	412,470	今野忠一展、高村智恵子切紙絵展、竹久夢二展、明治大正昭和名作美術展、小松均写生画展
昭和 46(1971)	55,063	467,533	桜井祐一代表作展、泰西名画と日本現代作家展、中川哲哉漆芸50年記念展、茶釜と茶陶展
昭和 47(1972)	53,453	520,986	一水会委員展、奥の細道関係資料展、金山平三展、福王寺法林画業展
昭和 48(1973)	54,471	575,457	日本美術院春季展、中国四大名窯展、土田文雄遺作展
昭和 49(1974)	72,108	647,565	小塚義一郎・為本自治雄遺作展、日本美術院春季展、山形の戦国時代武将展
昭和 50(1975)	170,973	818,538	五島美術館所蔵茶道具名品展、春の院展、松方コレクション展
昭和 51(1976)	62,113	880,651	川端龍子展、日本伝統工芸秀作展、山形県名宝展、遠藤桑珠画業展
昭和 52(1977)	118,921	999,572	日展山形展、正倉院宝物複製特別展、ウィーン国立工芸美術館所蔵浮世絵名品展、菅野矢一画業展
昭和 53(1978)	78,593	1,078,165	マリノ・マリーニ／吾妻兼治郎彫刻展、文化庁所蔵優秀美術作品展、ヴァン・ドンゲン展
昭和 54(1979)	104,291	1,182,456	桜井浜江画業展、二科展山形展、中国古陶磁展、黒田清輝展、菅原白龍・細谷鳳翁展
昭和 55(1980)	105,927	1,288,383	斎藤求画業展、クラコフ美術館収蔵浮世絵名品展、朝鮮古陶磁展、ブールデルのレダ展
昭和 56(1981)	83,643	1,372,026	世界の名匠版画展、日本古陶磁展、安孫子荻声・結城天童画業展、京都画壇近代の名作展
昭和 57(1982)	76,133	1,448,159	桜井祐一遺作展、佐藤忠良展、花と器の展覧会、横山大観展
昭和 58(1983)	57,116	1,505,275	子供の本 イラストレーション展、清野恒画業展、近代日本洋画展

年　度（西暦）	年度入場者数	累　計	主な展覧会
昭和 59(1984)	11,842	1,517,117	県買上優秀美術品展、山形美術館建設協力美術展
昭和 60(1985)	99,169	1,616,286	日展山形展、朝倉響子姫刻展、細川コレクション近代日本画名作展、現代美術選抜展
昭和 61(1986)	100,477	1,716,763	ロダン展、荻須高徳パリ風景画展、志野織部の美展、プラマンク展、一水会山形展
昭和 62(1987)	93,101	1,809,864	シャガール展、小野寺吉展、有元利夫展、李朝工芸展、岩合光昭写真展、浮世絵美人画名品展
昭和 63(1988)	126,392	1,936,256	文化功労者小松均展、北京故宮博物院展、ねむの木こども美術展、栄光の17世紀オランダ絵画展
平成　1(1989)	123,661	2,059,917	近代日本画にみる奥の細道展、青木繁らと石橋美術館展、近代絵画東北の100年展、斎谷虹児展
平成　2(1990)	104,196	2,164,113	エッフェル塔とパリ展、女性の美展、ユトリロ展、近岡善次郎展、郷土日本画の流れ展
平成　3(1991)	178,161	2,342,274	マリー・ローランサン展、福王寺法林展、アルフォンス・ミュシャ展、魅惑のガラス展
平成　4(1992)	145,877	2,488,151	小野竹喬名作展、ゴーギャンとブルターニュの画家たち展、中国古代陶磁展、山形美のシンフォニー展
平成　5(1993)	143,174	2,631,325	奥谷博展、愛しのフランス写真展、ヨーロッパ風景画の流れ展、越州窯青磁の動物たち展
平成　6(1994)	144,387	2,775,712	斎藤真成展、残された楽園展、ナンシー美術館名作展、国立博物館美術館所蔵・美の世界展
平成　7(1995)	146,011	2,921,723	竹久夢二展、ルートヴィヒ美術館展、山形の同時代作家展、祖田平八郎と高山辰雄展
平成　8(1996)	145,601	3,067,324	ノートン美術館展、排なる最上川展、生誕100年記念 椿真雄展
平成　9(1997)	119,224	3,186,548	美人画にみる風俗展、モディリアーニとその時代展、嫌と霧―若林奮展
平成 10(1998)	116,985	3,303,533	ケルン東洋美術館展、ピカソ版画展、院展にみる山形の美術100年展
平成 11(1999)	177,157	3,480,690	ルオー回顧展、いわさきちひろ展、福王寺一彦展、和歌の心と表現展
平成 12(2000)	143,609	3,624,299	秦の始皇帝と兵馬俑展、細江英公の写真1950－2000展、アンリ・マティス展、松本哲男展
平成 13(2001)	122,421	3,746,720	オディロン・ルドン展、中島清展、生誕100年記念 小松均展
平成 14(2002)	116,806	3,863,526	イタリア静物画展、北京故宮博物院展、みちのくの心と造形展―梶方志功と鈴木実
平成 15(2003)	130,115	3,993,641	京都日本画100年の光彩展、ポスターのユートピア展、相田みつを展、第18回国民文化祭美術展

※平成16（2004）5月に入場者の累計が400万人を超えました。

□収蔵品

・収集方針

①日本および東洋美術
②フランス近代美術
③山形関係の美術

・主な収蔵作家

日本および東洋美術

絵画　熊代隈堂、与謝蕪村、谷文晁、渡辺崋山、椿椿山、横山華山、長沢芦雪、田能村竹田、富岡鉄斎、川合玉堂、北野恒富、川端龍子

彫刻　平櫛田中、内藤伸、木内克、佐藤忠良

工芸　板谷波山、浜田庄司、長野垤志

書　松尾芭蕉、本居宣長、頼山陽、正岡子規

山形関係の美術

絵画　菅原白龍、荒木探令、下條桂谷、菊池章秋、根上富治、小松均、今野忠一、福王寺法林、高橋由一、金山平三、椿貞雄、土田文雄、菅野矢一、斎藤長三、斎藤录、桜井浜江、真下慶治、清野恒、清野克巳、島村迷彦

彫刻　新海竹太郎、新海竹蔵、桜井祐一、佐藤助雄、高橋剛、長沼孝三、吾妻兼治郎、鈴木実、富樫実、長橋阿久於

工芸　結城哲雄、中川哲哉

現代　齋藤真成、大内晴夫、太田三郎、木暮正吾、小池隆英、後藤寿之、サイトユフジ、佐藤時啓、半田敬史郎、渡辺栄一、峯田敏郎

フランス近代美術

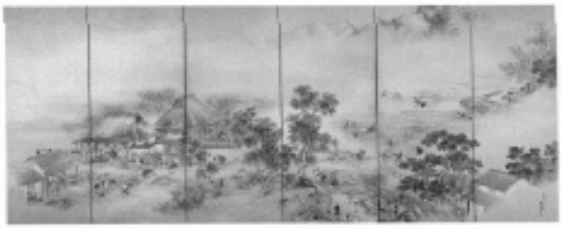
絵画　コロー、ミレー、クールベ、ブーダン、マネ、ピサロ、ドガ、シスレー、セザンヌ、モネ、ルノワール、ルソー、ゴッホ、カンディンスキー、ルオー、マルケ、ヴラマンク、ピカソ、ブラック、ローランサン、ユトリロ、シャガール、キスリング、ミロ、オギス、ビュッフェ、アイズピリ、ギアマン、ブラジリエ

彫刻　ロダン、ブールデル、マイヨール

与謝蕪村（1716-1783）
《奥の細道図屏風》（東京文化財）
1779年　紙本淡彩屏風　長谷川コレクション

松尾芭蕉（1644-1694）
《出羽三山図屏》
（山形県指定有形文化財）
1695年　紙本墨書
長谷川コレクション

横山華山（1784-1837）
《紅花屏風》（山形県指定有形文化財）
1825（文政）年／1835年（天保）紙本着色　長谷川コレクション



渡辺崋山
(1793-1841)
《渓澗野雉図》
(法務局新定重要文化財)
1837年
絹本着色
長谷川コレクション

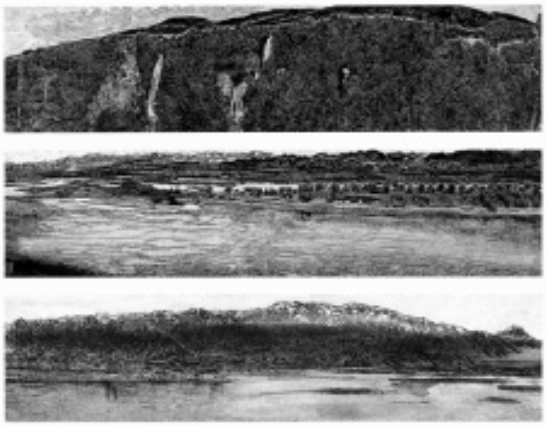
高橋由一
(1828-1894)
《鮭図》
1878年頃
油彩／キャンヴァス

新海竹太郎
(1868-1927)
《ゆあみ》
1907年
ブロンズ

新海竹蔵
(1897-1968)
《結髪》
1936年　木彫

金山平三
(1883-1964)
《山仕事の帰り》
1942年
油彩／キャンヴァス

椿貞雄
(1896-1957)
《唯子像》
1926年
油彩／キャンヴァス



小松均
(1902-1989)
《屋上川源流》
1979年　絹本着色

ジャン＝フランソワ・ミレー（1814-1875）
《バター作りの女》
1870年　油彩／キャンヴァス
吉野石膏コレクション

エドゥワール・マネ（1832-1883）
《イザベル・ルモニエールの肖像》
1879年頃　油彩／キャンヴァス
吉野石膏コレクション

カミーユ・ピサロ（1830-1903）
《ポントワーズの橋》
1878年　油彩／キャンヴァス　吉野石膏コレクション

ポール・セザンヌ（1839-1906）
《サンタンリ村から見たマルセイユ湾》
1877-79年頃　油彩／キャンヴァス　吉野石膏コレクション

エドガー・ドガ（1834-1917）
《踊り子たち，ピンクと緑》
1894年　パステル／紙（ボード貼付）
吉野石膏コレクション

ピエール＝オーギュスト・ルノワール（1841-1919）
《庭で犬を膝に抱いて読書する少女》
1874年　油彩／キャンヴァス
吉野石膏コレクション

クロード・モネ（1840-1926）
《テームズ川のチャリング・クロス橋》
1903年　油彩／キャンヴァス　吉野石膏コレクション

マルク・シャガール（1887-1985）
《夢》
1939-44年　油彩／キャンヴァス　吉野石膏コレクション
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2004

パブロ・ピカソ（1881-1973）
《マリ＝テレーズの肖像》
1937年　油彩／キャンヴァス
吉野石膏コレクション
©2004 - Succession Pablo Picasso - SPDA（JAPAN）

ジョルジュ・ルオー（1871-1958）
《告発されたピエロ》
1953-58年　油彩／キャンヴァス　服部コレクション
©ADAGP, Paris & JFACS, Tokyo, 2004

□常設展示

・日本の美術

長谷川コレクション

与謝蕪村《奥の細道図屏風》（重要文化財）をはじめ渡辺崋山、谷文晁、松尾芭蕉等、江戸期の狩野派、文人画、円山四条派の日本絵画を中心に展示しています。

これらは、山形銀行の経営に携わる㊫長谷川家からの1968年と1995年の二度にわたる寄贈と、1994年に殖産銀行の経営に携わる㊫長谷川家からの寄贈による作品300余点からなるコレクションです。

・フランス近代美術

吉野石膏コレクション

本県を創業の地とする吉野石膏株式会社（本社・東京）が所有するコロー、ミレー、クールベ、そしてマネ、ピサロ、ドガ、シスレー、セザンヌ、モネ、ルノワール、ゴッホなど印象派とその周辺の絵画、さらにマティス、ピカソ、ルオー、シャガールなど、印象派以後のフランス近代絵画を展示しています。

服部コレクション

初代旅長服部敬雄が収集した20世紀美術の絵画と彫刻を「巨匠の広場」に展示しています。

・山形関係の美術

新海竹太郎と新海竹蔵の彫刻

山形市出身で近代彫刻の先駆者の一人として文展・帝展で重きをなし、帝室技芸員、帝国美術院会員となった新海竹太郎（1868-1927）と、その甥で日本美術院同人、国画会会員として活躍した新海竹蔵（1897-1968）の作品を展示しています。また本県ゆかりの彫刻家の作品を「彫刻の小部屋」に展示しています。

□インフォメーション

＊開館時間

10時～17時（入館は16時30分まで）

＊休館日

月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始（12月28日～翌年1月3日）
展示替えなどのため、臨時休館することがあります。

＊入館料

	個人	団体（20名以上）
一　般	500	400
高大生	300	240
小中生	100	80

特別展・共催展開催時の入館料は別設定となり、常設展のみの観覧はできません。
土曜日は小・中学生は無料で観覧いただけます。

＊美術館維持会員

会員の方は、常設展示および当館主催の特別展がご覧になれます。

法人会員	50,000円/年	[同伴5名]
特別会員	7,000円/年	[同伴3名]
普通会員	5,000円/年	[同伴1名]
学生会員	2,000円/年	[本人のみ]

□山形美術館までのアクセス

[徒歩]
・JR山形駅(東口)から徒歩15分
[バス]
・山形駅前から「天童(荒谷経由)」行き、「山寺」行きで約5分、美術館前下車徒歩3分
・中心街「100円循環バス」(10分おき運行)で 約10分、霞城公園(教育会館)前下車徒歩4分
[車]
・山形自動車道山形蔵王ICから約15分
山形美術館北側に無料駐車場がございます。
美術館前の山形市大手町駐車場は有料です。

山形美術館
〒990-0046　山形市大手町1-63
tel. 023-622-3090
fax. 023-622-3145
http://www.yamagata-art-museum.or.jp/
mail　info@yamagata-art-museum.or.jp

MEMO

2007年5月発行